

よみがえる「河口コレクション」の世界

# 出水貝塚里帰り展講演会



**日時** 令和5年11月18日（土）

午後1時30分～午後3時50分

**会場** 講演会：出水市立出水小学校体育館

ミュージアムトーク：出水麓歴史館

**主催** 鹿児島県立埋蔵文化財センター

**共催** 出水市

出水市教育委員会

# よみがえる「河口コレクション」の世界 出水貝塚里帰り展講演会

【あいさつ】午後1時30分～午後1時40分

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 中村和美

出水市商工観光部文化スポーツ課 課長 駒寿ひとみ氏

【講演会・目次】午後1時40分～午後2時50分

「出水貝塚の発掘調査の成果と課題－平成の調査を中心として－」 . . . . . 1

出水市商工観光部文化スポーツ課 課長補佐 岩崎新輔氏

「河口コレクションの整理・報告書刊行にあたって」 . . . . . 9

(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 文化財専門員 松山初音氏

【ミュージアムトーク】午後3時5分～午後3時50分

## 【出水貝塚について】

出水貝塚は、鹿児島県出水市中央町にある、縄文時代早期から後期の遺跡です。

本貝塚は、1920年に初めて存在が確認され、1950年代に故河口貞徳氏を中心として発掘調査が行われました。

本貝塚は、古くから出水式土器の標式遺跡（特定の地域や時代・時期に流行した土器の特徴を示す契機となった遺跡）として知られています。出水式土器は、縄文時代後期初頭に九州西部を中心として好んで用いられたと考えられています。

貝層の上層から市来式土器・出水式土器等の縄文時代後期土器が、下層から南福寺式土器・阿高式土器等の縄文時代中期土器、さらに下層の黒色土層からは縄文時代早期の押型文土器が出土しており、縄文時代早期から後期土器の層位的な出土状況及び相対関係が把握できる重要な遺跡です。

また、縄文時代中期・後期に埋葬された人骨も見つかっています。当時の縄文人の形質や埋葬方法を調べる上で貴重な遺跡といえます。

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、その調査成果を整理し、2020年3月に、発掘調査報告書を刊行しました。また、PDFデータはホームページからダウンロードできます。



発掘調査風景



出土した土器



出水貝塚発掘調査報告書 (PDF)





出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 出水貝塚の位置



出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 出水貝塚の位置



出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 出水貝塚の位置



縮尺 750分の1

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査の履歴

- 1919(大正8)年…地元の黒木繁氏の情報を基に荒田道明氏が貝塚であることを確認  
同年に、**山崎五十麿氏** (鹿児島県史跡調査委員)  
**長谷部言人氏** (東北帝国大学教授)  
**浜田耕作氏** (京都帝国大学) らが発掘調査を実施
- 1953(昭和28)年…**林田重幸氏**(鹿児島大学)、**河口貞徳氏**(玉龍高校)が試掘調査  
埋葬人骨が出土し、注目を浴びる。
- 1954(昭和29)年…**山内清男氏**(東京大学教授)の指導のもと、林田重幸、**河口貞徳氏**ら6名の調査団が結成され、出水市の市政施行記念行事の一つとして発掘調査が行われた。
- 1996(平成8)-1998(同10)年…出水市教育委員会が主体となり、**市教委と県文化財課**が発掘調査を担当して実施

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査の目的

### 大正と昭和の発掘調査の主な成果

- 出水式土器**が縄文時代後期の標式土器として位置づけられた。
- 埋葬人骨が5体**出土したほか、ウマの骨も出土 (後に中世のものと判明)
- 貝塚が形成される前の、縄文時代早期 (約1万1千～7千年前) の土器が、貝塚から下(古い)の地層から出土した。

### 平成の発掘調査の主な目的

- ★**貝層、純貝層の範囲・時代と埋葬地域を絞り込む。**
- ★**住居跡や当時の人々の生活に関連した「跡」を見つける。**
- ★**貝塚より古い時代 (縄文時代早期) の遺跡範囲及び土器を把握する。**
- ★**中世のウマの骨出土したことによる、中世の遺跡の把握**
- ★**貝類や動物骨の分類による、貝塚のでき方と当時の自然環境を考える。**
- ★**出水貝塚の保存と活用**について方向性を決める。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18



## 発掘調査



第16トレンチ（試掘溝）の発掘調査風景です。普段歩いている15～20センチメートル下の地層から、貝殻が出土しました。

## 発掘調査



第16トレンチ出土の貝層です。白線で分けてあるのは貝を食べた後に貝殻をまとめて捨てたと考えられる‘かたまり’（ブロック）です。

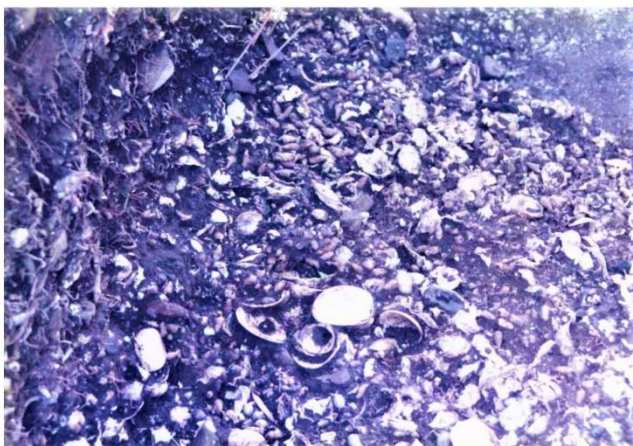
## 発掘調査



第16トレンチ出土の集石と呼ばれる、石蒸し料理に使われたと考えられる遺構です。貝層から下の地層から出土しました。貝塚より古い縄文時代早期に使われたものです。



## 発掘調査



第17トレンチ出土の貝層です。ハマグリなど二枚貝やカワニナなどの巻貝の貝殻の‘かたまり’が出土しています。

## 発掘調査



同じく第17トレンチ出土の貝層です。マガキの‘かたまり’が出土しています。

## 発掘調査



埋葬人骨が出土した第22トレンチの調査前の風景です。昭和29年の発掘調査を参考に埋葬人骨の有無を目的として調査しました。



## 発掘調査



埋葬人骨の出土状況です。ヒトの足が折り曲がって重なっている様子が分かります。腰から上の部分は機械などで掘られた跡があり、残されていませんでした。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査



埋葬人骨を取り出すために専門家によって土が少しずつ取り除かれていきます。そのことで、どうやってこのヒトが埋葬されたかが詳しく分かることがあります。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査



第22トレンチ出土のシカの頭骨(上あごの部分)です。貝塚では貝殻以外にも食べられた後のシカやイノシシ、サカナなどの骨も一緒に出土します。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18



## 発掘調査



第7トレンチ出土の石錘(せきすい)と呼ばれる、魚を取るための投網の重りです。当時の漁師が使った後に置いた状態で残されたと考えられます。網は腐って無くなりました。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査



第7トレンチ出土の集石遺構です。オレンジ色の地層は約7300年前の火山灰層です。この火山灰層の下は縄文時代早期の地層ということが分かっています。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 発掘調査



発掘調査では、河口貞徳鹿見島県考古学会会長(当時)に現地指導をいただきました。上は22トレンチ埋葬人骨出土時の報道機関取材状況、下は7トレンチの石錘を写真撮影されています。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18



## 貝塚の保護



現在は舗装された道路ですが、以前は未舗装の道路でした。舗装工事の前には、重機を使って貝塚の有無を調査しました。結果、この部分では貝塚はありませんでした。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

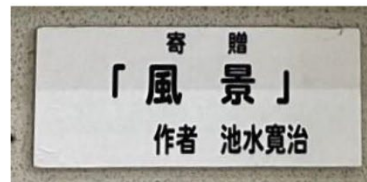
## 保護と活用



貝塚の様子を広く知ってもらうため、出土した貝殻・獣骨・土器などを土層まるごと特殊な薬品を使って固めて剥ぎ取り、公共施設で展示しています。

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 保護と活用



剥ぎ取りの貝層を展示しているボードの後ろに、出水高校考古学部で出水内外をはじめ県内で様々な遺跡を発掘調査された池水先生の絵が展示されていました！（先生は美術教師です。）

出水市文化スポーツ課 岩崎新輔2023.11.18

## 今後の課題

### ◎出土遺物や出水貝塚にまつわる資料は県指定文化財に!! 「出水貝塚出土品 附 書簡」

- ・ 出水式土器の標式遺跡
- ・ 縄文時代早期の押型文土器
- ・ 縄文時代中期～後期の阿高式土器、南福寺式土器・出水式土器・市来式土器など
- ・ 石器・貝製品・骨角器も出土  
石製垂飾品は再利用の例として重要
- ・ 追加指定の書簡  
大正9年の発掘調査に係る長谷部言人、濱田耕作、島田貞彦ら、当時の人類学界や考古学界で活躍していた研究者の直筆資料

(県ホームページから引用)



## 今後の課題

### ◎出土遺物や出水貝塚にまつわる資料は県指定文化財に!!

次は……

### 出水貝塚現地 の 保存と活用

そのためには、





# 河口コレクションの整理・ 報告書刊行にあたって

(公財) 埋蔵文化財調査センター  
調査第二係 松山初音



## ●河口貞徳氏について

考古学の基礎を築いてきた先学として、  
本県のみならず、全国的に著名な考古学者。

昭和46年～平成23年まで、40年間にわ  
たり鹿児島県考古学会会長として、本県考  
古学の発展に寄与。

昭和28年～平成7年まで鹿児島県文化  
財保護審議委員として、本県文化財の保護  
に尽力した。



## ●河口氏の調査経歴（一部）

- 1953 (昭和28) 年12月 出水貝塚 (試掘)
- 1954 (昭和29) 年5月 大島郡笠利村宇宿貝塚
- 1954 (昭和29) 年5月 大島郡伊仙村面縄兼久貝塚
- 1954 (昭和29) 年5月 大島郡和泊村畦布ワンジョナーバンタ遺跡
- 1954 (昭和29) 年7月 出水貝塚 (発掘調査)
  
- 1964 (昭和39) 年8月 曾於郡志布志町片野洞穴
- 1964 (昭和39) 年8月 肝属郡高山町検見崎古墳
- 1965 (昭和40) 年8月 日置郡吹上町黒川洞穴
  
- 1978 (昭和53) 年8月 大島郡笠利町宇宿貝塚 (笠利町教育委員会)
- 1979 (昭和54) 年3月 曾於郡末吉町中岳洞穴 (末吉町教育委員会)
- 1979 (昭和54) 年8月 始良郡溝辺町石峰遺跡



### ● 「河口コレクション」について

平成23年に河口氏がご逝去されたのち、ご遺族のご厚意により県立埋蔵文化財センターに寄贈された、河口氏が保管していた遺物や記録類。

本県のあらゆる遺跡の発掘で出土した大量の遺物は、本県や九州の歴史を語る上で欠かせない貴重な資料。



埋文センターでは、重要遺跡を中心に資料を再整理・再資料化。  
河口氏の報告に加え、現在の視点での整理や遺跡の評価を行う。



### ● 出水貝塚について

出水市上知識町字尾崎に所在する縄文時代後期の貝塚。後期初頭の土器型式である出水式土器の標式遺跡。

本県において初めて学術的発掘の行われた貝塚でもある。





## ● 出水貝塚の調査歴

調査期間等	調査者（主体者）	調査の種類	報告書等
1920（大正9）年7月下旬	山崎五十麿	試掘	山崎 1920
1920（大正9）年8月23日	山崎五十麿	試掘	山崎 1921
1920（大正9）年12月20日～25日	長谷部言人 濱田耕作・島田貞彦	発掘調査	濱田他 1921 長谷部 1921
1953（昭和28）年12月20・21日	河口貞徳	試掘	河口 1963
1954（昭和29）年7月21日～8月6日	出水市（企画） 山内清男・河口貞徳	発掘調査	河口 1958 a 河口 1958 b
1996（平成8）年6月24日～7月23日	出水市教育委員会	範囲確認	出水市 教育委員会 2000
1997（平成9）年6月9日～7月17日			
1998（平成10）年9月16日～10月13日			



### 【1920(大正9)年7月 山崎五十麿（試掘）】

土地の所有者が遺物に気づき、当時の上鯖小学校長に尋ねる。  
 ↓  
 校長が1919（大正8）年春に現地を調査、貝塚であることを確認。  
 ↓  
 鹿児島県史跡調査委員であった山崎五十麿氏を案内、一部を発掘。

「県内希有の大貝塚を発見したるを似て之を報告せむとす」  
 「本貝塚を出水貝塚と命名し学会に発表せん」

（山崎五十麿 1920 「薩摩國出水貝塚に就て」『考古學雜誌』第11巻第1号 より引用）



### 【1920(大正9)年8月 山崎五十麿（試掘）】

7月に実施した調査の成果をもって、濱田耕作氏（京都帝國大学教授文学博士文学士）・長谷部言人氏（東北帝國大学教授医学博士医学士）に対して調査の要請を行うが、都合により実現せず。

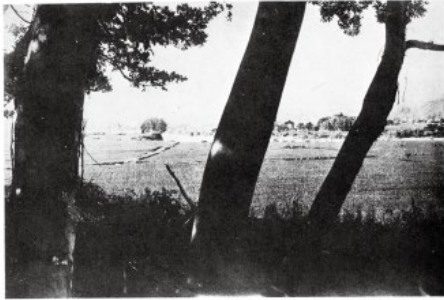


約1か月後の8月下旬に山崎氏が再度調査を行う。  
 調査成果を『考古學雜誌』第11号第5号にて報告。



## 【1920(大正9)年12月 濱田耕作・島田貞彦(発掘調査)】

山崎氏の再度の要請に応え、長谷部言人氏が発掘調査を企画。  
濱田耕作氏・島田貞彦氏(京都帝国大学助手)とともに調査を実施。



望遠望平川津東より上瀬目水出

(1)



(七望りより方南東)塚目水出

(2)

### ● 濱田氏・島田氏の調査成果

土器：第一類土器(直線式模様・曲線式模様)  
第二類土器(縄席文)

石器：石斧・石鑿・石錘・敲石等

その他：骨角器・貝殻製品・馬歯・人骨片など

※長谷部氏が1921年に『京都帝国大学文学部考古学研究所報告』  
で獣骨や人骨について報告

「石器時代に馬の棲息せるを確認せり」

→後の分析により、後の時代(中世以降)の馬の骨の可能性が  
高いと判明





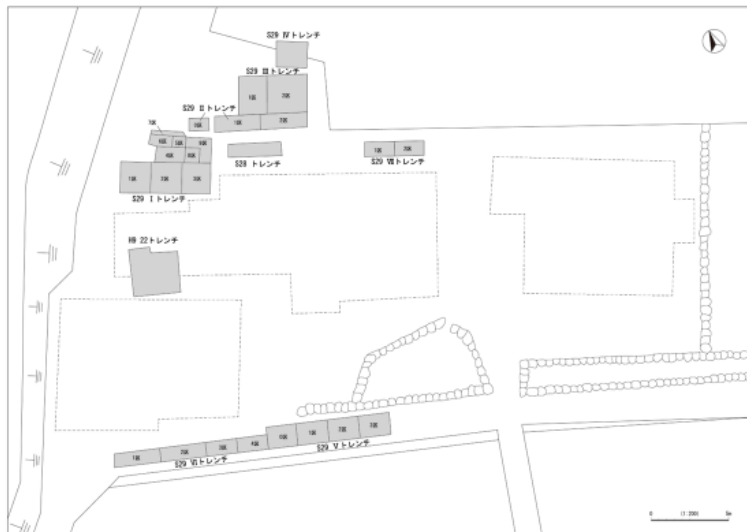
## 【1953(昭和28)年12月 河口貞徳（試掘）】

林田重幸氏（鹿児島大学）が出水貝塚の馬歯に注目し、山之内忠平氏（鹿児島大学生）、玉龍高校生3名と共に試掘。

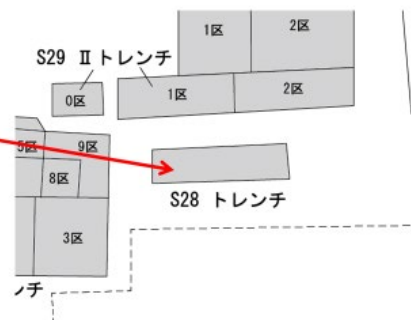


きわめて保存状態のいい仰臥屈葬の人骨が出土。  
腰付近から阿高式土器（縄文時代中期）が出土。

出水貝塚が再び注目を集めるきっかけに。



出水貝塚トレンチ配置図（1953・1954年調査、出水市調査時の人骨出土トレンチ）  
（鹿児島県立埋蔵文化財センター2020より引用）



## 【1954(昭和29)年7月・8月 河口貞徳（発掘調査）】

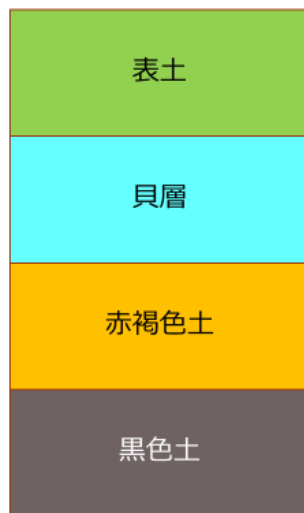
- ・前年の調査の後、長谷部氏が出水貝塚を訪れ再調査を勧めた。
- ・出水市が市制施行記念事業のひとつとして発掘調査を計画。



山内清男氏（東京大学）の指導のもと、  
林田氏や玉龍高校生らとともに発掘調査。  
期間：7月21日～8月6日（17日間）

非常に多くの遺物が出土、より詳細な記録類が残される。

### 出水貝塚基本層序



京都帝國大學調査（1920年）

- ・表土及び貝層の厚さ
- ・土器、石器、獣骨、人骨破片
- ・貝類

等を報告

山内氏・河口氏調査  
(1953・1954年)

市来式・出水式

南福寺式・阿高式

南福寺式  
阿高式  
並木式

押型文

「自然の粘土層」  
「何等遺物の存在を見る  
こと無し」

### ● 出水貝塚の調査成果

#### 成果その①

縄文時代中期～後期の土器が層位的に出土した

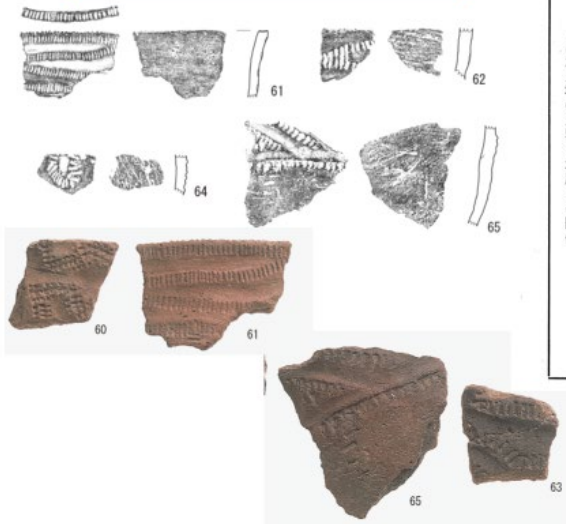
#### ☆地層累重の法則の応用

地層は下から上に積み重なるため、下の地層ほど古く、上の地層ほど新しい。

→下の層から出土する遺物ほど古いものである



### 並木式土器 (縄文時代中期)



トレンチ別		VI	V	VI	I <sup>1</sup> I <sup>3</sup>	II II	
出水貝塚の土器と地層との関係	層別						
	表層						
	貝層	} 出水 VI			市来 市来?	出水 II	市来 (I) 出水 (II) 南福寺 (V)
	層		並木式	南福寺下層	南福寺下層	阿高	阿高
	赤褐色土層				阿高	阿高	並木 (VI) 阿高
黒色土層	押型文		押型文	押型文	押型文	押型文 (IVVII)	
砂礫層							

### 阿高式土器 (縄文時代中期)



トレンチ別		VI	V	VI	I <sup>1</sup> I <sup>3</sup>	II II	
出水貝塚の土器と地層との関係	層別						
	表層						
	貝層	} 出水 VI			市来 市来?	出水 II	市来 (I) 出水 (II) 南福寺 (V)
	層		並木式	南福寺下層	南福寺下層	阿高	阿高
	赤褐色土層				阿高	阿高	並木 (VI) 阿高
黒色土層	押型文		押型文	押型文	押型文	押型文 (IVVII)	
砂礫層							

### 南福寺式土器 (縄文時代後期初頭)



トレンチ別		VI	V	VI	I <sup>1</sup> I <sup>3</sup>	II II	
出水貝塚の土器と地層との関係	層別						
	表層						
	貝層	} 出水 VI			市来 市来?	出水 II	市来 (I) 出水 (II) 南福寺 (V)
	層		並木式	南福寺下層	南福寺下層	阿高	阿高
	赤褐色土層				阿高	阿高	南福寺 (II) 阿高
黒色土層	押型文		押型文	押型文	押型文	押型文 (IVVII)	
砂礫層							

### 出水式土器（縄文時代後期初頭）



トレンチ別		Ⅵ	Ⅴ	Ⅳ	Ⅰ Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
出水貝塚の土器と地層との関係	層別						
	表層						
	貝層	出水Ⅰ			出水Ⅱ	出水Ⅲ	市来Ⅰ
	赤褐色土層	並木式	南福寺下層	南福寺下層	阿高	阿高	南福寺Ⅱ
	黒色土層	押型文		押型文	押型文	押型文	並木Ⅳ
砂礫層							

### 市来式土器（縄文時代後期中頃）



トレンチ別		Ⅵ	Ⅴ	Ⅳ	Ⅰ Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
出水貝塚の土器と地層との関係	層別						
	表層						
	貝層	出水Ⅰ			市来Ⅰ	出水Ⅱ	市来Ⅱ
	赤褐色土層	並木式	南福寺下層	南福寺下層	阿高	阿高	南福寺Ⅱ
	黒色土層	押型文		押型文	押型文	押型文	並木Ⅳ
砂礫層							

### 成果その②

押型文土器がアカホヤ火山灰層（約7,300年前）の下からまとまって出土

「（京都帝國大學調査時の）土器で注意されたのは、縄文後期の土器に混ざって、押型文土器が見られたことである。この現象は、南九州にあっては押型文土器は後期にいたるまで残存するという説の証拠とされた。」（河口 1986より引用）



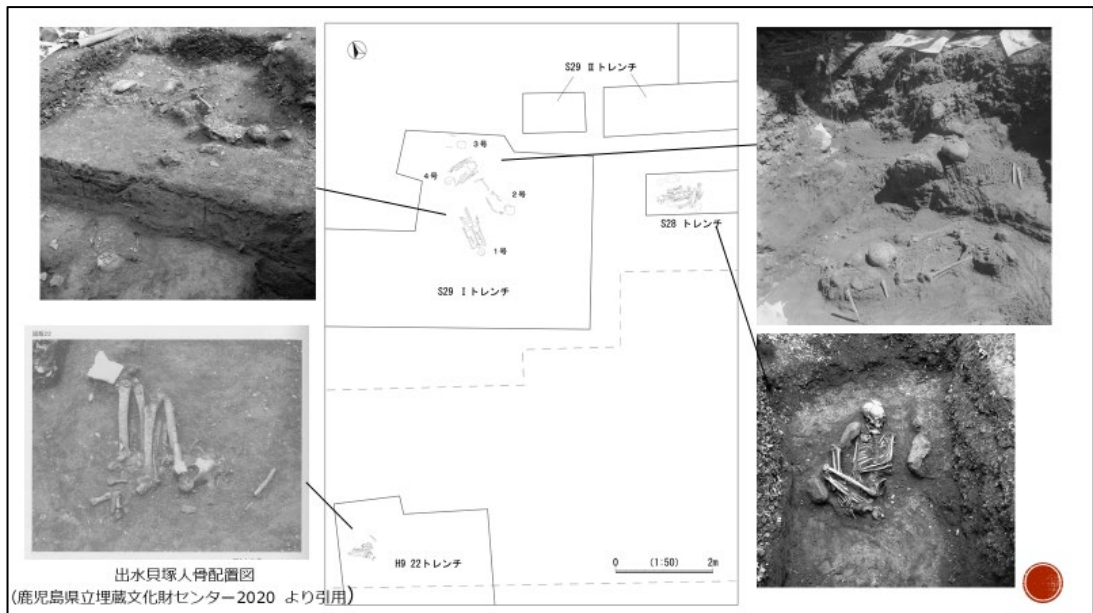


**成果その③**

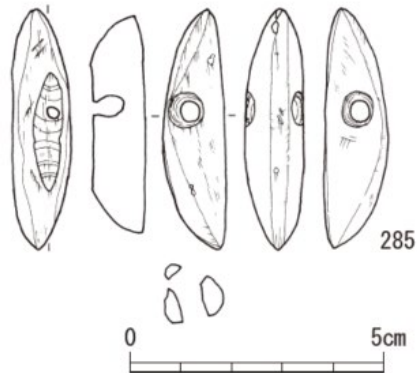
(3) 縄文時代中期～後期初頭の土器を伴う人骨が  
良好な状態で出土

1953年・1954年の河口調査時、1997年の出水市調査時とを合せると6体の人骨が出土。

- ・当時の縄文人の骨格など、形質の分析が可能。
- ・どのように埋葬されたのかが観察できる貴重な例。



● その他の出土遺物



● その他の出土遺物（貝輪未成品・骨角器など）



【1996年～1998年 出水市教育委員会（範囲確認発掘調査）】

九州の貝塚研究の上で貴重な出水貝塚の保護対策の資料とするため、出水市教育委員会が貝塚及び遺跡の範囲確認等を目的とした重要遺跡確認発掘調査事業を計画。



3年間にわたり確認調査を実施。

土器・石器・骨製品・貝製品等が多量出土。  
屈葬の人骨の下半身も出土した。



### 出水貝塚出土品（いずみかいづかしゅつどひん）

種類：有形文化財（考古資料）

所在地：鹿児島県立埋蔵文化財センター、鹿児島女子短期大学、埋蔵文化財作業室・収蔵室（出水市）

所有者：鹿児島県、出水市

特徴等

出水貝塚では、大正9年から平成10年までの間に計6回の発掘調査が行われました。縄文時代早期、中期～後期の遺物が出土しており、出木式土器の様式遺跡となっています。縄文時代早期の層からは押型文（おしがたもん）土器がまとめて出土したほか、縄文時代中期～後期の層からは阿高（あたか）式土器や南福寺（なんぶくじ）式土器・出木式土器・市来式土器などが出土しました。そのほか、石器・貝製品・骨角器も出土しています。中でも転用したと考えられる石製垂飾品は再利用の例として重要です。また、縄文時代の人骨も出土しています。出水貝塚出土品は、縄文早期及び中期～後期の九州における文化などを考える上で貴重な文化財です。



押型文土器

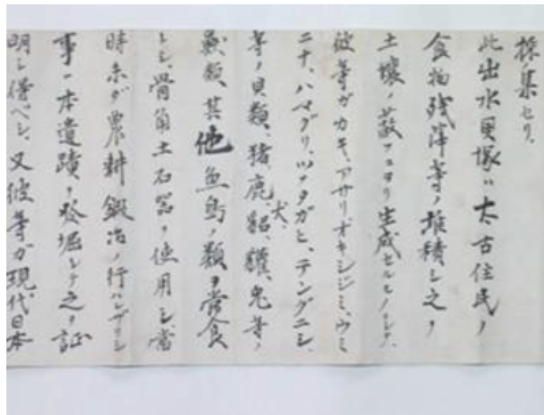


出木式土器



石製垂飾品

令和3年4月23日  
県の指定文化財に登録



令和4年4月26日追加指定

1920(大正9)年調査時の  
長谷部言人氏  
濱田耕作氏  
島田貞彦氏  
による直筆の書簡。

「出水貝塚出土品 附 書簡」として県指定文化財に指定。



### ● 出水貝塚の調査成果（河口コレクション）まとめ

- ・全国的にみても古くから存在と遺跡の重要性が知られ、長年にわたり調査が行われてきた。
- ・土器の出土状況が土器の前後関係を検討するにあたって重要な根拠となった。他、貴重な考古遺物が多数出土している。
- ・記録類がしっかり残っており、調査当時の様子が詳細に分かる。

調査方法・出土遺物・記録など、様々な面で考古学史的に重要な遺跡。



「河口コレクション」とは、長年、鹿児島県の考古学界をリードしてきた考古学者、河口貞徳氏が調査した遺跡の記録や、土器や石器などの考古資料のことです。その資料は鹿児島県の歴史や文化を知る上で大変貴重なものとなりました。そしてこれらの貴重な資料は、ご遺族のご好意によりまとめて鹿児島県立埋蔵文化財センターへ寄贈していただき、保存・整理・活用を行っています。

## 考古学者 河口貞徳の生涯と業績 (埋文だより第83号抜粋)

河口貞徳氏は1909(明治42)年鹿児島市加治屋町に生まれ、学生時代や教員時代の一時期は東京や福岡等の県外で生活しますが、人生の大半を鹿児島で過ごしました。発掘調査に携わるようになったのは、40歳になった1949(昭和24)年に鹿児島市笹貫遺跡で行った調査からで、その年に寺師見國氏や三友国五郎氏らとともに創立した鹿児島県考古学会は昨年70周年を迎えました。氏は当初から事務局担当者として会を主導し、1971(昭和46)年から亡くなるまでの約40年間は、会長として会を運営するとともに、県下の遺跡調査・保護に努められました。次に氏の主な業績について振り返ります。



鹿児島市玉龍高等学校にて(鹿屋市祓川遺跡出土短甲復元の様子)

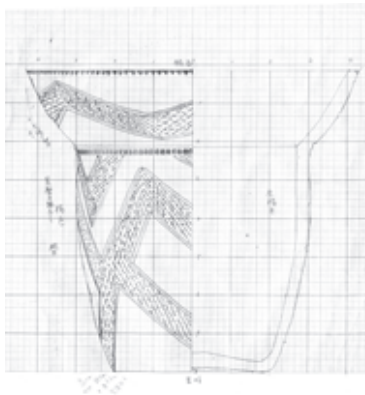
1952(昭和27)年に調査し、報告された日置市黒川洞穴出土の土器は黒川式土器と呼ばれ、当時九州で出土する縄文時代晩期の土器すべてに使われていました。

1958(昭和33)年には砂鉄採掘によって破壊されていた錦江町山ノ口遺跡を調査するとともに、関係者によって持ち去られていた軽石製品などを収集しています。これらの資料はその後、弥生時代の祭祀遺物を代表する資料として多くの図書に掲載されるとともに全国の展示会などで公開されました。

1962(昭和37)年に調査した南さつま市高橋貝塚からは、南九州における稲作開始を物語る多くの資料が出土しました。中でも製作途中の南島産貝殻の出土は、この地が弥生時代に北九州などで出土する貝製腕輪の中継地であった可能性について議論される契機となりました。また、1976(昭和51)年に近くの下小路遺跡で発見された合わせ口甕棺墓は、甕棺や出土した腕輪の形から、貝製腕輪製作に携わった人物の墓ではないかと考えられ注目されました。



発掘調査指導時の様子



河口氏の墓ノ神式土器実測図

1968(昭和43)年から翌年にかけて、南さつま市上加世田遺跡や日置市入来遺跡で、シラス採取などによって不幸にも遺跡が破壊される出来事が起こりました。氏は県考古学会員や高校生などの応援をもらいながら、時には鹿児島市から現場まで1人あるいは奥様と2人で出かけ、必死に調査を続けました。遺跡はなくなったものの、南九州の縄文時代後期末から弥生時代中期初頭を代表する貴重な遺構の記録や遺物が残されることとなりました。

1950年代以降、各地の縄文時代遺跡を調査し、縄文土器の新旧関係を調べる編年作業を進めていましたが、1980(昭和55)年に刊行された霧島市石峰遺跡の報告書では、後に研究者の間で「河口編年」と呼ばれることとなる、南九州で出土する縄文土器の編年案を提示しました。これは今日の縄文土器研究の基礎となっています。

氏はこうした調査で出土した遺物の多くを自宅で洗い、注記・接合・復元し、『鹿児島考古』等の考古学専門誌で積極的に紹介してきました。これらの遺物を見直し、新たな発見・解釈を発表するなど、郷土の歴史解明に対する意欲・熱意は、亡くなる2011(平成23)年まで衰えることはありませんでした。



## 河口貞徳氏の略年譜

年代	年齢	年 譜
1909年(明治42)	0	鹿児島市加治屋町にて精松幸吉の三男として誕生
1928年(昭和3)	19	鹿児島県立第二鹿児島中学校卒業
1930年(昭和5)	21	鹿児島県第一師範学校本科二部卒業
1930年(昭和5)	21	鹿児島県公立玉江尋常高等小学校訓導
1933年(昭和8)	24	鹿児島県第一師範学校専攻科卒業
1936年(昭和11)	27	福岡県公立八幡小学校教員
1939年(昭和14)	30	河口貞徳と改姓
1940年(昭和15)	31	東京市高輪台尋常小学校訓導
1942年(昭和17)	33	立正大学卒業
1943年(昭和18)	34	鹿児島市鶴嶺高等女学校教諭
1948年(昭和23)	39	鹿児島高等学校第一部教諭
1949年(昭和24)	40	寺師見國・三友国五郎などと鹿児島県考古学会を創立 <b>笹貫遺跡調査</b>
1950年(昭和25)	41	鹿児島玉龍高等学校教諭 <b>中津野遺跡・千束遺跡・岩崎遺跡・一の宮遺跡調査</b>
1951年(昭和26)	42	<b>草野貝塚調査</b> 「一の宮遺蹟報告」
1952年(昭和27)	43	日本考古学協会会員となる。寺師見國・三友国五郎・国分直一等と『鹿児島県考古学会紀要』を発行 鹿児島市文化財専門委員。京都大学文学部に内地留学 <b>春日町遺跡・黒川洞穴・大原遺跡調査</b> 「鹿児島県の弥生式諸遺蹟について」
1953年(昭和28)	44	鹿児島県文化財専門委員(文化財保護審議会委員～1995) <b>石坂上遺跡調査 出水貝塚調査</b>
1954年(昭和29)	45	<b>宇宿貝塚調査 出水貝塚調査</b>
1955年(昭和30)	46	「鹿児島のおいたち-先史時代」 「鹿児島市春日町遺蹟発掘調査報告」 「南九州出土の条痕土器-吉田村及び知覧町遺蹟」
1957年(昭和32)	48	「南九州後期の縄文式土器-市来式土器」
1958年(昭和33)	49	<b>山ノ口遺跡調査</b>
1960年(昭和35)	51	「山ノ口遺蹟」
1961年(昭和36)	52	鹿児島大学非常勤講師(～1985) <b>宝島浜坂貝塚調査</b>
1962年(昭和37)	53	<b>高橋貝塚調査</b>
1963年(昭和38)	54	<b>入佐遺跡調査</b>
1965年(昭和40)	56	「鹿児島県高橋貝塚」
1966年(昭和41)	57	南日本文化賞(南日本新聞社) <b>鶴嶺窯跡調査</b>
1967年(昭和42)	58	鹿児島玉龍高等学校を退職。池水寛治等と鹿児島県史跡調査会を創立 「鹿児島県黒川洞穴」
1968年(昭和43)	59	<b>上加世田遺跡調査</b>
1969年(昭和44)	60	<b>入来遺跡調査</b>
1970年(昭和45)	61	文化財功労者表彰(文化庁)
1971年(昭和46)	62	鹿児島県考古学会会長就任 <b>平梶貝塚調査</b>
1972年(昭和47)	63	「塞ノ神式土器」
1973年(昭和48)	64	「楯形石の祖形-松ノ尾遺蹟出土の貝製腕輪」
1974年(昭和49)	65	<b>嘉徳遺跡調査</b> 「奄美における土器文化の編年について」
1976年(昭和51)	67	<b>下小路遺跡調査</b>
1978年(昭和53)	69	昭和53年度朝日学術奨励金を三島格(代表)らとともに受ける(研究題目九州と南島の古代文化の交渉研究)
1979年(昭和54)	70	勲五等雙光旭日章受勲
1980年(昭和55)	71	<b>東黒土田遺跡調査</b>
1981年(昭和56)	72	「市来式の祖形と南島先史文化への影響」
1982年(昭和57)	73	<b>中甫洞穴調査</b> 「縄文草創期の貯蔵穴-鹿児島県東黒土田遺蹟」
1988年(昭和63)	79	『日本の古代遺蹟 38 鹿児島』
1989年(平成元)	80	「吉田式と前平式のその後について-南九州の早期縄文土器」
1990年(平成2)	81	「縄文晩期の土器-上加世田44年8月調査資料を中心に」
1991年(平成3)	82	「市来式と擦切手法」
1993年(平成5)	84	「型式の再考察-山ノ口遺蹟ほか」
1995年(平成7)	86	「考古学における型式の実態」
1998年(平成10)	89	地域文化功労者賞受賞(県考古学会)
2000年(平成12)	91	「縄文から弥生へ軟着陸の高橋貝塚」
2001年(平成13)	92	「新田神社・三角縁神獸鏡」
2008年(平成20)	99	日本考古学協会賞受賞
2011年(平成23)	101	1月10日満101歳で逝去



教員時代



ご自宅にて

# 令和5年度発掘調査予定遺跡

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが調査する遺跡
- (公財)埋蔵文化財調査センターが調査する遺跡
- 市町村教育委員会が行う調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡

※【】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 霧島市国分上野原縄文の森2番1号  
 TEL 0995-48-5811 FAX 0995-48-5812  
 ホームページ  
<https://www.jomon-no-mori.jp/>  
 フェイスブック  
<https://www.facebook.com/kagoshima.maibun/>

